

新潟地域合併建設計画(総論)

(新にいがたまちづくり計画)

第五回の協議会で示された新潟地域合併建設計画の総論部分を掲載します(一部略あり)。

I はじめに

1 趣旨

新潟地域合併建設計画は、政令指定都市の実現を目指す決議を尊重し、新市の将来における政令指定都市の実現を見据え、合併する新潟市と新津市・白根市・豊栄市・小須戸町・横越町・亀田町・西川町・味方村・湯東村・月潟村・中之口村(以下「十二市町村」という。)の有する、それぞれの総合計画等を継承するとともに、新潟都市圏総合整備推進協議会が策定した「新潟都市圏ビジョン」、並びに新潟地域広域市町村圏協議会が策定した「第四次新潟地域広域市町村圏計画」を基に、新市域における速やかな一体化と均衡ある都市基盤の整備を図り、新しいまちづくりを着実に進めるための基本的指針を定めるものであり、政令指定都市実現後の新市の在り方、区への分権などの新市の仕組みを盛り込むものです。なお、政令指定都市が実現し

た場合においては、区割などを踏まえ、必要な見直しを行うものとなります。

また、この合併建設計画は、住民の意向を十分に取り入れ、策定される次期新市総合計画に反映されるものです。

2 期間

「まちづくりの基本方針」は、長期的展望に立ったものとし、「まちづくり計画」は、平成十七年度から平成二十六年までの十カ年計画とします。

3 新市の概要

(1) 位置及び地勢

新市は、日本海側のほぼ中央部に位置し、日本を代表する大河である信濃川、阿賀野川の二大川の最下流域にあります。水田に代表される広大な農地、中小の河川、福島潟・鳥屋野潟・佐潟などの水辺、長く続

く海岸線に白い砂浜と青い松林、緑多い里山などの豊かな自然環境に恵まれています。また、新潟県の県庁所在地として政治・経済・文化の中心地であり、高速道路、新幹線、航空路等交通の結節点となっています。

(2) 人口(表1)

新市の人口は七十六万九千四百四十一人で、新潟県全体に対する人口シェアは三二・一割となっており、県人口の約三分の一が集中しています。(3)面積(表2)

新市の面積は、六百十三・八一平方キロメートルとなっており、新潟県全体の四・九割を占めています。

(4)都市計画区域及び用途地域(表3) 平成十四年四月一日現在、都市計画法に基づく都市計画区域に指定されている面積は五万三千五百八十四ヘクタールで、新市全体面積の八七・三割となっています。また、用途地域が指定されている面積は一万二千六十ヘクタールで、このうち住居系地域が六八・七割と最も多く、次いで工業系地域の二二・八割、商業系地域の八・五割となっています。

表1 人口

【人口】

	総人口(人)	男	女	世帯数	人/世帯
新市	769,441	372,979	396,462	272,650	2.8
新潟県	2,475,733	1,202,004	1,273,729	795,868	3.1

(平成12年国勢調査)

表2 面積

【地目別土地面積の概要】

(単位: ha・%)

地目	課税対象							非課税	合計
	宅地	田	畑	山林	原野	池沼	雑種地		
面積	10,203	25,374	4,817	1,422	75	125	1,224	18,141	61,381
構成比	16.6	41.3	7.9	2.3	0.1	0.2	2.0	29.6	100.0

(平成14年1月1日時点の固定資産概要調査に基づき集計)

表3 都市計画区域及び用途地域

【都市計画区域の概要】

区分	面積(ha)	構成比(%)
都市計画地域	53,584	87.3
市街化区域	11,423	21.3
市街化調整区域	31,982	59.7
区域指定なし	10,179	19.0
指定なし	7,797	12.7
新市全体面積	61,381	100.0

【用途地域の概要】

区分	面積(ha)	構成比(%)	
用途地域	第1種低層住居専用地域	1,366	68.7
	第2種低層住居専用地域	94	
	第1種中高層住居専用地域	1,984	
	第2種中高層住居専用地域	673	
	第1種住居地域	3,539	
	第2種住居地域	449	
	準住居地域	178	8.5
	近隣商業地域	646	
	商業地域	382	
	準工業地域	1,476	
	工業地域	524	22.8
工業専用地域	749		
合計	12,060	100.0	

(平成14年4月1日 行政制度調査基礎データ)

(5) 産業構造(表4)

新市の就業者数は、平成十二年国勢調査で三十八万五千二百九十二人となっています。産業別の就業者数割合は、第一次産業が四・七割、第二次産業が二五・七割、第三次産業が六八・七割となっており、第三次産業の割合が、最も高くなっています。

(6) 新市の特徴

諸外国からの海・空の玄関口として、国際港湾や国際空港を有するほか、高速交通網として北陸自動車道、磐越自動車道、日本海東北自動車道及び上越新幹線が整備され、国内はもとより環日本海圏における交通・物流の結節点として、さらに高い拠点性を有します。

表4 産業構造

【産業別就業者数】

分類	就業者数(人)	構成比(%)	
第1次産業	17,941	4.66	
	農業	17,753	4.61
	林業	27	0.01
	漁業	161	0.04
第2次産業	99,189	25.74	
	鉱業	367	0.09
	建設業	44,033	11.43
	製造業	54,789	14.22
第3次産業	264,741	68.71	
	電気・ガス・熱供給・水道業	2,483	0.64
	運輸・通信業	24,921	6.47
	卸売・小売業、飲食店	99,361	25.79
	金融・保険業	12,100	3.14
	不動産業	3,142	0.81
	サービス業	108,187	28.08
公務(他に分類されないもの)	14,547	3.78	
分類不能の産業	3,421	0.89	
総数	385,292	100.00	

(平成12年国勢調査)

人口集積、高次都市機能の集積、多様な産業の集積などによる、人・物・情報の活発な交流が進む、大都市性」と、豊かな自然環境に恵まれ、広大な農地が連なる、田園地帯」という二つの特性が調和・共存した都市となります。

市としては、人口が全国で第十五位の都市となります(左表【人口ランキング】)。

農業粗生産額と水田面積日本一を誇る都市になります(下表【農業粗生産額ランキング】、【水田面積ランキング】)。

「米どころ新潟」として全国的に有名であるように、水稲が基幹作物ですが、海岸砂丘地の葉たばこ・大根・スイカ・メロン、新津・小須戸地区を中心

とした花き、白根周辺地区の梨・桃・ぶどうなどの果樹、豊栄地区のトマト・なす、亀田地区の梅、横越地区の梨・ながいも、西川地区のそら豆等、様々

な特産物が栽培されており、全国的にも重要な食料供給基地となります。

新潟県内最大の湖沼「福島潟」では、オニバスに代表される三百五十種以上の水生・湿生植物や、国の天然記念物であるオオヒシクイをはじめとする二百二十種以上の野鳥が確認されています。

【農業粗生産額ランキング】 (単位: 百万円)

順位	都市名	農業粗生産額
1	新市	63,597
2	豊橋市(愛知県)	57,800
3	渥美町(愛知県)	48,600

【水田面積ランキング】 (単位: ha)

順位	都市名	面積
1	新市	26,165
2	旭川市(北海道)	11,400
3	郡山市(福島県)、大潟町(秋田県)	11,100

(北陸農政局新潟統計事務所)

(平成12年国勢調査)

【人口ランキング】

順位	都市名	人口(人)
1	横浜(神奈川県)	3,426,651
2	大阪(大阪府)	2,598,774
3	名古屋(愛知県)	2,171,557
4	札幌(北海道)	1,822,368
5	神戸(兵庫県)	1,493,398
6	京都(京都府)	1,467,785
7	福岡(福岡県)	1,341,470
8	川崎(神奈川県)	1,249,905
9	広島(広島県)	1,126,239
10	さいたま(埼玉県)	1,024,053
11	北九州(福岡県)	1,011,471
12	仙台(宮城県)	1,008,130
13	千葉(千葉県)	887,164
14	堺(大阪府)	792,018
15	新市	769,441

また、ラムサール条約登録湿地の「佐潟」などの湖沼にも数多くの水鳥が訪れるほか、河川、田園風景、砂丘地の松林、さらには、住民が心身をリフレッシュしたり自然体験ができる里山(新津丘陵)など、多くの恵まれた自然環境を有します。 全国に誇る新潟まつりや白根大凧合戦、月潟の角兵衛獅子をはじめとする多彩なまつりのほか、越後千町歩地主「伊藤家」の豪壮な館に美術品・民芸品・考古資料を多彩に展示している「北方文化博物館」、徳川時代の面影を映す大庄屋の遺構である重要文化財「笹川邸」、県立植物園などの文化施設、花きの大規模販売施設や観果果樹園などの産業観光、年間二百万人もの競馬ファンを集める日本海側唯一のJRA新潟競馬場など、豊富な観光名所を有します。